ASUKA COMICS DX

ファイアーエムブレム™

© 1990 Nintendo

5



M A S A K I S A N O &
佐野真砂輝&わたなべ京
K Y O W A T A N A B E

ASUKA COMICS DX

ファイアーエムブレム™

5

M A S A K I S A N O &

佐野真砂輝&わたなべ京

K Y O W A T A N A B E

CONTENTS

Design:EIICHI SUEZAWA

第14話 紅雨 I


旧アカネイア領ディール城
海を望めるこの城はアカネイア王家の保養のための城だった
反乱軍は海側から首都アカネイア・パレスを攻めるらしいぞ
するとこのディール城のあたりは通らないな
まあマルス王子には関係がないからな
戦争が始まりドルーアに没収されるまでは
マルス…王子
つまりは見捨てられたのだ
この城の人質は


ファイアーエムブレム
第14話
紅雨 I
こうう
©1990 Nintendo



FIRE EMBLEM

MASAKI SANO & KYO WATANABE




天空騎士だ
ドルーアの偵察だな
墜としますか
ジョルジュさんっ
ばさ
これから先のことを考えるとそれぐらいのことはした方がいいんだろうけどね
いよいよアカネイア・パレスに乗りこんでドルーアの連中を一掃するのですね!!


準備は着々と進んでいます
明日にでもここペラティを発てます！
母なる聖アカネイアの首都王女ニーナの故郷
今はドルーアに侵略された聖地アカネイア・パレスに向かって！
ああハーディンともそのつもりで話し合ってるよ
できる限り早くアカネイア・パレスへ
あなたは人を殺しに行くの？


向かって！
エリス姉さ——
すっ
マルスさま！
はっ
ハーディンさまがお呼びですよ
あ うん
すぐ行く


このペラティからアカネイア・パレスに行くには海路となるわけですが
幸いにもアカネイア・パレスに一番近い港は国でも最大級の港です
ペラティを解放したことで我が軍はまた兵を増やしたので船団も大規模になるでしょうから好都合かと
しかしドルーアもそのことを予想しているはずだ
待ちぶせでもされては…
いや少々の危険を冒してでも一刻も早くアカネイア・パレスを取り戻すのだ
今はオレルアンでその日を心待ちにしておられるニーナさまのためにも
あなたは人を殺しに行くの？



はずだ
人を殺しに行くの?
違う
違う
ぼくは
ざわ・
ディール城?
しかし
その方法で
アカネイア・パレスに
乗りこむとなると
ディール城は
通らないね
アカネイア・パレスよりは
…ずいぶんと離れた
城ですね
こちらも
近くに港は
ありますが…
マルス?
いったい
何を…
忘れたのかい?
ハーディン
オキステス城で
捕えた
マケドニアの兵が
言っていたこと
!
第一王子
ミシェイルさまは
国王となり
妹君の第一王女
ミネルバさまは


ぼくも忘れていたんだ
目の前の戦いに
殺し合いにばかり気を取られて！
第二王女のマリア姫はディール城へと
ガタ
まさか…
ディールにいるマケドニアのマリア姫はなかば幽閉に近い扱いを受けていると聞く
そんな人を放っておけない
ふぅ



腹でも痛いのか？レナ
いえ平気よ
先の戦いのことを考えて…少し緊張しているみたい
…あっ
あんたはおれが守ってやるよっ
ありがとうジュリアン
あっさりかわされたな
うるせえっ
心ここにあらずさ
おれの言葉なんか聞いちゃいねぇよ



レナは心優しいシスターで本当は戦いなんか嫌いなんだからな
盗賊くずれのおれなんかがつりあう相手じゃねぇんだ
でもあんたのことが頭から離れない
アカネイア・パレスの戦いがものすげぇことになるのは目に見えてんだあんまりレナに頼んじゃねぇぞっ
特におまえだおまえっ
びしっ
おや
ああだがそれは少し先になるような気がする
なっ
なんで!?
さっさとアカネイア・パレス取り戻すんだってみんな明日にでも出発できるようにしてるぜ!!
理由？理由はそうだな
マルス王子はやっぱりマルス王子だからだ
!??


反対だ
アカネイア・パレスを目前にしてそんなことをしている場合か!?
あと一息だというのに
あと一息でドルーアの喉笛に噛みつけるのだ!!
マケドニアはドルーアの連合国のひとつだ
忠誠か服従かいずれかの証としてドルーアに差し出された人質など我々解放軍には関係がない!
でもそれを知っているなら見捨ててはおけない



そのために
仲間を危険にさらし
ニーナさまのご帰還を
遅らせることに
なってもか？
そうだ！
マルス
おまえは…っ
ぼくたちは
人を殺しに
行くのではない
人を救いに
行くのだ
アカネイア・
パレスに！


ドルーアに苦しめられている人たち
帰るべき場所に帰れない人たち
そんな思いを
ぼくは知っている泣きたいほどに
ぼくひとりではどうにもならなかったことも「今なら」どうにかできる
ならぼくが取るべき道はひとつしかないんだ
他の誰にもそんな思いをさせたくなくてぼくは剣を取ったのだから
ディール城を経由してアカネイア・パレスに向かう！


マルス
マルスさま
炎の紋章を持つ
ぼくが
そう決めた！
「炎の紋章」
王女ニーナから
託された
聖アカネイアの名の下に
将として
解放軍を率いることの
できる証
ざわっ
それを持つ者に
反するということは
聖アカネイアに
反するということ
そうだな
ならば
仕方あるまい
ハーディンさま…


それが聖アカネイアの意志なのだから私は従う
炎の紋章を持つ者に
そうだよハーディン
すべては聖アカネイアの御心のままに


アカネイア・パレス
エストが戻りましたミネルバさま
反乱軍はペラティで船団を編成しています！
やはり海側からここアカネイア・パレスに近づくようです
国王より謹慎中の私にまず報告か？
軍規違反ものだぞエスト


わっ　わたしは
わたしたちは
ミネルバさまの
白騎士団なんだから
これでよいのですっ
それに
陛下は
…ミシェイルさまは
あちらの本丸で
会議を続けて
いらっしゃいますから
お会いできませんし
とうとう
聖アカネイア本国へと
近づきつつある
反乱軍と
どう交えるか
ミネルバさまも
ご謹慎中で
なければ
参加なさるはず
ですのに
同じ城内に
いるのに
陛下は
意地悪だわっ
エストッ
兄上は
安心して
おいでだよ


レフカンディにて反乱軍を目の前にして
戦わずに帰った竜騎士が隣にいてはいろいろとやりづらかろうよ
ミネルバさまそのような!
あれは騎士として当然の…
ことにこの会議にはドルーア総統もお出ましだし
!
メディウス——さまが?
ガーネフどのもおられるらしい


アカネイア・パレスは聖アカネイアの元首都
オレルアンの緑条城を取られるのとはわけが違う なんとしてもドルーアのものにしておかねば
めったに姿を見せぬ あの おふたりが出てくるのも当然だ
そんな時に誰も ディール城のことなど気にも留めておらぬ
そう 反乱軍でさえも きっと!
ミネルバさま…
姉さま



そこにいる私の妹のことなど
いま この世界にとって どうでも いいことなのだ
ミネルバ姉さま わたし ずっと お祈りしてるわ ミシェイル兄さまの分も もちろん ちゃんとね
どうか おふたりとも 誇り高く 生きられますように
私は紅毛の竜騎士
戦いの女神 ミネルバ
ならば私に 戦いの場をくれ


剣を握り
空に舞う
その間だけ
私は騎士として
生きられる
他には
何も考えずに
いられるのだ
…祈っておくれ
マリア
ドルーアへの
忠誠の証として
人質となり
ディール城に住まう
私の愛しい妹
私は　おまえのために
戦おう


パオラ姉
カチュア姉
空見てっ
ああっ?
急に雲が
—
おまえのために
騎士であろう
だから 私のために
祈っておくれ
マリア
せめて
おまえを思って
戦うから
それしかできない私を
許しておくれ


たかが亡国の王子ひとりとあなどっておったわ
炎の紋章を手に入れ
オレルアンのハーディンまでもが合流した
なぜおまえたちは手をこまねいて見ておったのだ

マリア
許しておくれ


反乱軍を潰さねば
マルス王子を殺さねば我らドルーアに明日はないぞ
帝国が大陸を支配するまであと一歩だというのに!!
ガーネフどのが封じているはずの神剣の力が漏れてかの王子に力を与えているのでは?
なに!?
確実にマルスは伝説を作っている
マケドニアのミシェイルか


いうのに!!
この場に・・・本当にお出ましになれないほどあなたの状態は尋常ではない
片時も側を離れぬほど神剣ファルシオンの力は絶大なのですね
!
ぬう…
幸いにもあの王子はまだまだ生身だあきれるほどに
神剣が持てるとも思えないが——


何か策があるようだな
マケドニア国王ミシェイルよ
メディウス皇帝
魔道士ガーネフとともにドルーア帝国を建てた伝説の竜人族
我が名をご記憶とは光栄です ドルーア皇帝


民衆たちは マルスに 英雄アンリを 見ている
また マルスも そのことを 自分で判っている 様子
故に「炎の紋章」を 受け取り 反乱軍の首領と なった
ますます 民衆の注目と 後押しを 得るために
奴の思惑通り 反乱軍に応じるように 調子づいている 連中がいるのは この場にいる諸侯も ご存じの通り
うむ
確かに ここ最近 私の領地内でも 剣を取る奴らが 増えてきた


そんな時に迫りくる反乱軍に慌てふためいていてはそんな連中をあおるだけとは思われぬか？
ここはアカネイア・パレス 聖アカネイアの頃でもそしてドルーアのものとなった今でも「首領」の地！
そうだ陥とされるわけにはいかぬ！
しかし先程の事情などもあって充分な戦力が今ここに集まっているとは言い難い
準備が万全になるまでにはしばらく時間を要するはず


しばらく時間を要するはず
愚かな人々は反乱軍がアカネイア・パレスに来る日を今日か明日かと待っている
だが反乱軍は今しばらくここには来ない
なぜだ？
ここより南東の地にあるディール城に行くと思われる故
海の望める小さな城
ディール？確かあそこには…
あの城には数年前より住人がひとり


マケドニアの帝国への忠義をその身で示す我が妹マリアがおります
そのことは世間が知るようにマルス王子も知っているはず
伝説を背負いながらも生身のあのマルス王子は
マケドニアがマリアのおかげで帝国に与していると考えてディールへわざわざ足を運ぶでしょう
マリアのためひいてはマケドニアのためとあきれるほどの正義感で
優しい優しい反乱軍の首領は「人質」と聞いてはあのマリアのことをきっと見捨ててはいられない


あきれるほどの正義感で
反乱軍をそのディールで足止めさせてその間に我々は…
だがディールに回す兵力は…
そんな余裕はないと言ったはず
ディールなど捨てておけばよい
ざわっ
！
それではディール城にいる…貴公の妹君は…
妹姫はどうする？戦場となる地に守りもつけずひとり置かれることになる
ディールにいる将軍に伝えておきましょう



反乱軍をそしてマルスを消すための道具となるならば使えるものはすべて使えと
ざわ
なんと
マリアもドルーアのためにその命を捧げるのならば本望でしょう
それがうまくいけばディールの少ない戦力でもいくらかは反乱軍の兵力を削れるでしょう
その間にアカネイア・パレスに最強の軍勢を揃えておきます
おもしろい


おもしろいぞ
やってみるがいい
ミシェイル
御意
殺せ殺せ殺せ!


やっと息がつける
うむ 室内までも暗かったような
す.
ざわ
恐ろしい男
この時代に最もふさわしい男かもしれん――
敵を知るのは戦時において重要なこと
見事な作戦です マケドニア王
黒騎士カミュにほめていただけるとは



私はこの世界の誰よりもマケドニアを愛している国王として
騎士の貴公には判るであろう？
痛いほどに
詩人だなカミュ
ディールへ行けと？


反乱軍を
少し叩いてこい
全滅させても
かまわんがな
紅毛の竜騎士
兄上
それでは…
ここから新たに
ディールに回せるのは
おまえと
その白騎士団の
三人だけだ
なに——？
私は
「反乱軍を
少し叩いてこい」と
言ったのだ
ミネルバ
間違うなよ
マリアは
どうなる？
見捨てる⁉
戦場にひとり
——
なのに我らは
助け出せない⁉


・・・その時は ドルーアへ 捧げたと 言うがいい 我らが マケドニアのために
国が生き残るために
私たちは マケドニアの王族だ マケドニアの 民のことを忘れる わけにはいかぬ
マリアも 判ってくれよう
私は 平気よ
御意
マケドニア王



花が
足りないわね
わあああああ
将軍っ 反乱軍に 城門突破 されましたっ
うぬう 人質とはいえ 敵国の姫を 助けに来るとは とんだお人好し どもめッ


マルス王子め
炎の紋章を
背負っているからと
格好をつけおって
その甘さを
思い知らせてやるッ
速やかに
人質となっている
マリア姫を
捜し出し
お助けしろ！
できる限り
戦いは避けろ
次の戦いの
ために！


すべての力はアカネイア・パレス奪還のために！
ハーディンさまはあくまでマリア姫救出に反対のお考えなのですね
きっとそういう考えなのは彼だけじゃないだろうけどね
ぼくも ただの反乱軍の一員だったらきっとハーディンと同じ気持ちかもしれない
だけど ぼくは自分であることを見失いたくない
姉上が気づかせてくれたよ
は!?
マルスさまっ


紅毛の竜騎士
ミネルバ姫——!?
✡第14話／紅雨I✡END


TM
©1990 Nintendo
第15話
紅雨（こうう）
II


今日から
マケドニアは
ドルーア帝国の
一部となる
国のため民のため
父上と私とで
決めたことだ
ミネルバ
マリア
将軍
ジューコフ将軍
ええい
だまれッ
はっ
反乱軍は
いたるところで
戦闘を
降伏する兵も
相当数いる
ようですっ


このディール城には
マケドニアの
二の姫が
人質として
住まうだけ
それ故に
兵も少なく
守りも
手薄だった
しかし
おのれ
マルスめ！
ここでこの城を
陥とされでもしたら
私の落ち度に
なってしまうっ
それは
人質の
マリア姫を
奪われても
同じことだ
おのれ
おのれッ
私とて 好き好んで
この地に来たのでは
ないぞっ
ビクッ
捨て駒同然の
マリア姫のせいで
こんな羽目に…っ
わあ


なっ
なんだ
将軍
増援です!!
なに?
やはり
ドルーアは
私を見捨ては
しなかったか!
わあああ
紅毛の
竜騎士が
マケドニアの
戦いの女神
ミネルバ姫が
来てください
ましたっ!!


アリティアのマルス――
アリティアが陥ちた
聖アカネイアも今はない「伝説」だけでは人は生きてゆけぬよ
増援がミネルバ姫だと!?


マリア姫を盾にして反乱軍の動きを封じてやるつもりだったというのに
よりにもよって増援がそのマリア姫の姉姫だとは…っ
そのうえふたりの兄は今やドルーアの中核を成すという噂のミシェイル
マリア姫を危険な目に遭わせたと知れたら私にどんな処分があるか判らぬ――!
ミネルバさま以下天空騎士三名西門上空にて待機なさっておいでです!
三名?
増援が総勢四人だと!? たったの!?
は…はいっ
マリア姫を反乱軍に奪われてもよいというのか!?


つまり マリア姫も 我々も どうなっても よいと…!?
ミネルバ姫は 見届け役か!?
おのれッ ドルーアも 反乱軍も 私を甘く見おって!!
どうせ 捨て駒ならば マリア姫を予定通り 有効に使わせてもらおう
ミネルバ姫も 見届けるだけでは 戦いの女神の名が 泣くだろうからな
マリア姫を 連れてこい! 反乱軍の前に 引きずり出すのだっ


アベル…
王子っ 早く城内へ！
ミネルバ姫は 私たちが 足止めを…


？
攻撃して…こない？
いったいどういうつもりなんだ
脅しか？
やめろ ジョルジュ 射つな！
魔法も控えろ
攻撃してこないものは無視しろ
ぼくたちが・・・何をしに来たのか忘れるな！


――
微妙な間合いだな
あの竜騎士たち
つかず離れず…
くそっ
ここの扉も
内側から
鍵がおりてる
城内に
入れん!
バサッ
ぎく
忘れるな!


…たったの四人！一気にやればっ
あのミネルバ姫の動きを見てみろ！
名高い白騎士団の天空騎士は我々を監視しているらしいが
あの紅毛の竜騎士はマルス王子しか見ていない——！


ミネルバ姫
わたしを レフカンディで 見逃してくれた 竜騎士
何よりも マケドニアの 戦士の国の 人間であることを 誇りに思って いらっしゃった
そう 昔から 気高くて 美しくて
そんな あなただから 実の妹といえど 敵である わたしたちに 助け出された マリア姫を お許しにならない かもしれない
でも


そのうえ
マルスさまを
討とうとするなら
許さない
わたしの身体で
マルスさまに
斬りつける剣を
止めてみせる！
天空騎士の私では
相手にならない
だろうけど
いまごろ
思い知るなんて
わたしって本当に
甘いわ…
これが戦い
いつも
殺されるのは
こころ


だからマルスさま
あなたを わたしは
失いたくない
あなたは
流れを変える者
だから
何もしないで
生きているだけなんて
どれほど意味の
ないことかを
教えてくれる
まずは前を向くこと
そんなことまで
気づかせてくれる
ミネルバさま…
シスターは
マケドニアの
出身らしい


…それがなんだってんだ
くそっ
駄目だ 開かねえッ
こんな面倒な鍵は見たことねえよッ
この頑丈さじゃ剣でも歯がたたねえだろうな
こんなとこで剣を潰すわけにはいかねえし
魔法で突破したらいずこにおわすか判らないマリア姫を傷つけてしまうかもしれないし…
たぶん どこもこんなもんだぜ
早く城内に入らないと！
あっ
ゴードン！


ビッ
ドドドッ
落ち着け弓手兵！
当てるつもりはなかったらしいが当てることもできる——ということだな
だってあんな…背中に剣をつきつけられているようなっ
そうだな だが その剣の先はおれたちに向いてるわけじゃない
軽はずみな真似はマルスさまを逆に追いつめるぞ
…すみませんでした ジョルジュさん
ぐしゃぐしゃ
おれにあやまってどうするんだ


気持ちは判らんでもないさ
きっとみんなもな
ゴードンが弓を引きかけたようですがミネルバ姫に威嚇されたようです
戦いにはならなかったが
だが火種が消えたわけではない
兵たちは皆緊張している
このままではまた同じようなことが起こるぞ
せめて早く城内に入ることができれば！
しかし何故ミネルバ姫はマルスをただ見ているだけなのだ？
私は


マケドニアはもともと豊かな国ではない
民と力を合わせてここまでにしたのだ
私は何をしているのだ?
我が王家は竜を駆る戦士の一族
だがその力は民のためにあるのだ
私はドルーア帝国マケドニアの竜騎士
忘れてはならんぞおまえたち
父上の言葉を忘れたか?ミネルバ
故にドルーアの命を受け反乱軍を


英雄アンリの国
アリティアは陥ち
聖アカネイアは
滅びたも同然
マケドニアが
生き残るために
ドルーアに
与するのが
当然だろう？
国のために
そして
民のために
だから
マリアを
マリアを
人質に？
我らの
実の妹を!?
私は平気よ
お姉さま
国のために
マリアを
見殺しにするのか
兄上
国のために民のために
私のために
笑ってみせた
マリア
そのマリアを
助けるべく
このディール城などに
寄り道をしている
愚かな反乱軍


その「解放軍」を滅ぼそうとするドルーアに与することが正しいマケドニアの在り方なのか兄上
私は何をしているのだ…！
反乱軍は城内にまだ入れないみたい
ジューコフ将軍手薄な守りを強化するために城の造りを変えたのかもしれないわ
パオラエストカチュア！
ミネルバさま何か…
おまえたちはアカネイア・パレスに戻れ


何をおっしゃいますっ 我々はミネルバさまの白騎士団です
だからこそ戻れと言っている
こんな戦いに私と白騎士団が合わせて四人も参じたとあっては私の名に傷がつく
私ひとりで十分だ
ならば我々の誰かが残ります！
・・・ただの天空騎士が神剣の王子と剣を交えるつもりか？
マケドニア王女としての私 そして我が兄マケドニア王ミシェイルに恥をかかすことになるぞ



――おまえたちまで共に死ぬことはないのだ
ミネルバさま…っ
戦うおつもりなのか
騎士としてマリアさまの姉君として
承知いたしました
アカネイア・パレスに戻り我らが国長のお戻りをお待ちしております
そんなあなたに私たちが何を言えるだろう
――そう
ただ一言
御存分にお戦いください


!!
白騎士団が帰ってゆく!?
ミネルバ姫ひとりに!
おれたち相手ではそれで十分だと!?
いや
あの眼はいざとなればマルスさまと刺し違えるつもりだ——!


ミネルバ姫が部下共を帰しただと!?
何を考えているのだっ それともドルーアの作戦なのか!?
はっ
はいっ
まさかマケドニアの弱点でもあるマリア姫をこの機に乗じてミネルバ姫が始末するつもりでは
そうなれば私とて用済み 反乱軍にとってはただの敵 どちらにしろ殺されるだけだ
開いたぁ!!
わっ
あぁっ
中からも他の扉の鍵を開けろ!
各所に散った仲間を城内に導くのだ


一刻も早くマリア姫を!!
マリア姫を早く!!


マルス
——王子!!
貴公が
この城の
ドルーアの
将軍か!?
ばッ
!?
なっ
なんだ
げほっ
ジューコフ将軍!
ドルーア帝国内
マケドニア王
ミシェイルからの
伝令である
ガラ
ガラ
ドン


ミネルバ姫
ばっ
人質を最大限利用して反乱軍の戦力を削り取れと！
なっ！
もっ
もとより承知！削り取るどころか神剣の王子を捕えてくれよう！
マルス王子よ ここがマリア姫のいる部屋だ
マリア姫の命が惜しくば…


剣を捨てよ!
私を助けてくださる王子様を歓迎するために花をたくさん用意しましたのに
ほんっとに! ジューコフ将軍以下・・無粋な方々!
マリア姫!
ま
ばっ


さぁ
マルス王子！
こちらへ
来るのだッ
卑怯なッ
貴様の
仲間の国の
姫ではないのか
将軍
ええい　うるさい
人質など　しょせん
捨て駒よッ
役に立つ方が
珍しいという
ものだ
黙れッ


なっ
な…
それ以上
マリア姫を
侮辱するのは
許さない
侮辱———と
言うのか
マルス王子？
たかが
人質の身の
マリアの
ことなのに
カッ
やっとあなたと
しゃべることが
できた
ミネルバ
やっぱり
昔と変わらず
気高く
美しい声だ
ぼくの姉上は
あなたの
その凛とした声に
ひどく憧れて
おいでだった
…エリスどのか


変わったのは ぼくらを 取り巻く世界 ぼくも あなたも 誰もかも その中で 自分を見失わずに 生きていかなければ ならない
とても …大変だけど でも 揺れ動く世界に 流されようと
マケドニアの 王家の誇りを 失わずに あなた方は 戦ってこられた のだ 「捨て駒」などと 呼ばれてよい わけがない！
どうか誇りを 失わないように


戦いの中で綺麗ごとを並べたてるなぁッ
「伝説」に護られている身分で!!
マルスさまッ
伝説が剣を受け止めてきたわけじゃないッ


ミネルバ
きっさま…
マルス王子よ
伝説が剣を
受け止めぬと知って
何故よけない？
よければ
その後
ぼくと引き替えに
マリア姫が
殺されていた
きっと
ぼくは
ぼくたちは
マリア姫を
助けた末に
目的を果たそうと
しただけだ
だから
ずっと背後に
この私の気配を
感じていながらも
振り向くことなく
――！


きさまドルーアを裏切る気かァ!!
この裏切り者 人質もろとも殺せ殺せぇッ
剣を捨てた人間に斬りつけるような誇りなき騎士と
ズッ
同志と思われるなら死んだ方がましだ!
その通りよお姉さまッ


危ないマリア姫っ
はっ はいっ
はっ
ミネルバ姫！死ぬ気ならぼくがもらおう
くっ
マルス王子…


死んでもいい命なんかないんだ
敵国の人質のためにその身を何度も投げだすくせに
そんなことを言うとはな
なるほど彼らが王子の伝説を護る剣というわけか
私までも救ってくれた礼を言う
いいや


ぼくと伝説を作っていく剣たちだ
ならば私の
剣も共に！
兄上を裏切ることになるよミネルバ姫
私が捨てるのはドルーア
私も兄上もいつでも誇り高く生きてゆくだろう場所が違うだけ
許してはくれなくても
マリア

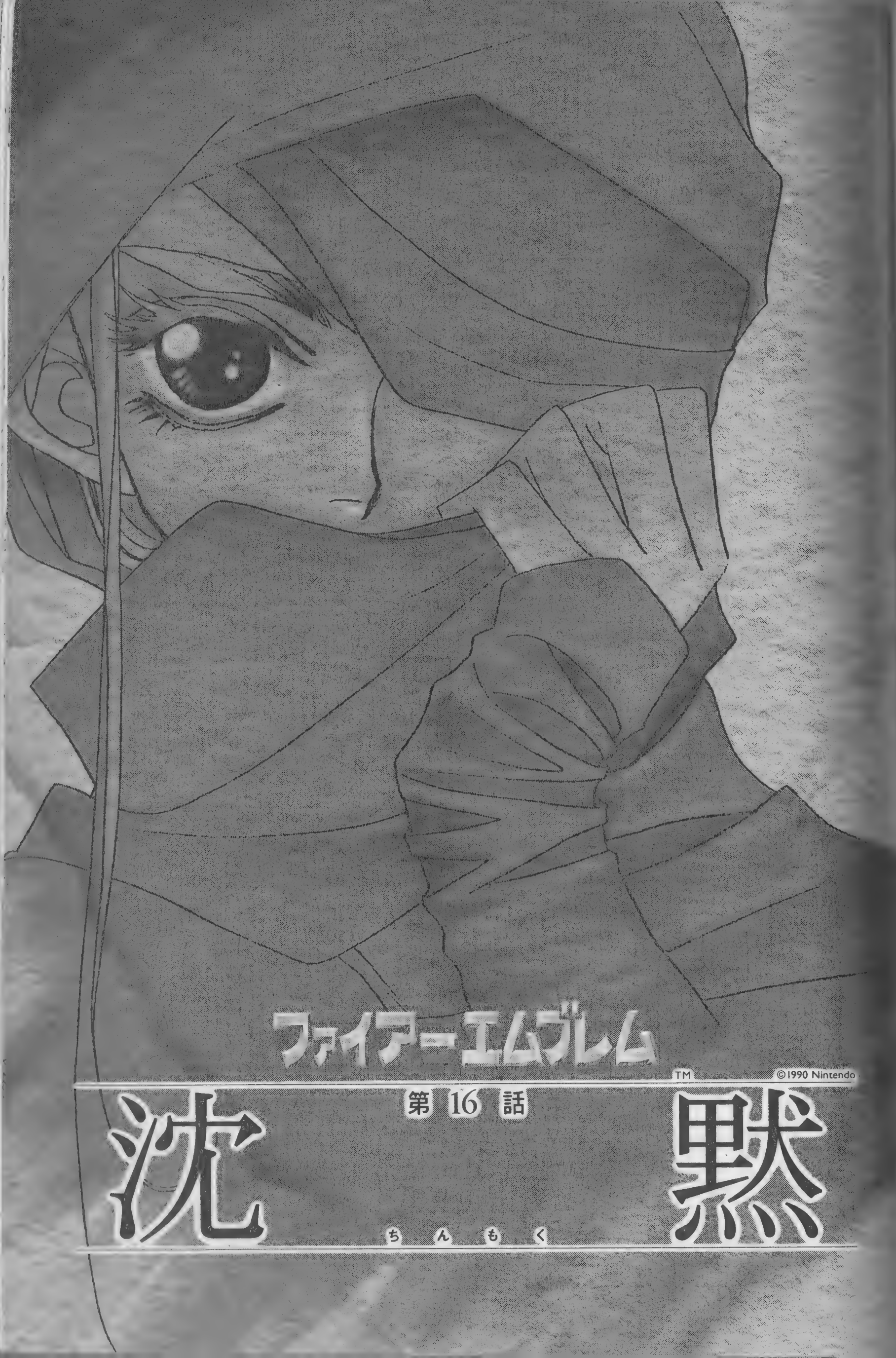

おまえは自由だ
好きなところへ
行きなさい
あら
お姉さまと
一緒に行くわ
決まってるじゃない
…兄上とは
敵となるのだよ
わたしを
こんなところに
閉じこめたのは
ミシェイル兄さまよ
それにこっちには
マルスさまが
いらっしゃるし！♡
くるっ
ミネルバ姉さまが
寂しくないように
わたしが ついていて
あげる
…わたしだって
戦いの中に
いるの
あの竜騎士の
兄と姉を持つ
人間として
わたしだって
戦わなければ
いけないの


わたしは わたしの誇りと命を懸けてマルスさまと行くわ
お姉さまと一緒に！
おまえは妙なところで
私に似ているね…
お兄さまにもよくそう言われたじゃない
しかたないわあきらめて
マリア姫はマケドニア三兄妹のなかでおひとりだけ竜騎士ではないので…
もっとおしとやかだと思った？
まあマルスさま
でも とても仲の良いお三人だったわ
わたしうらやましくてよく覚えてます



ずっと あのままで いられたら よかったのに
いつまでも 同じところで 立ち止まっては いられない
だけど ただ流される だけじゃなくて
どんなに 幸せな時間でも 永遠ではいられない
そして 戦いは
自分で 動かなきゃ 生きている 意味がない
アカネイア・パレスへ
☆第15話／紅雨II☆END




ファイアーエムブレム
TM
©1990 Nintendo
第16話
沈黙
ちんもく





あの町（まち）は――


竜が目立つかと本隊と離れて偵察のまねごとまでさせてしまって
すまないミネルバ姫
解放軍の同志に何を他人行儀な!
「姫」もやめてくれマルス
すまない判った
それでこの近くにあると言っていた町の様子はどうだった?
ああアカネイア・パレスにもほど近くてドルーアに占領されていても栄えていたんだが
今見てきた限りでは兵の姿がひとりもないのだ
え?


あの町に ドルーアから派遣された 領主というか 責任者は ショーゼン将軍といったが
本人が 戦ったわけでもないのに 町中にドルーアの軍旗を立てて ふんぞり返っていたな
それに ノルダは 誰がいようと この戦時中でも 賑やかな町だったが
そんな町から なぜドルーアは いなく なったんだろう
私が 解放軍に 寝返ったとは 思わずに アカネイア・パレスの守りを 固めに行ったのだろう
そうか ディールは 完全に制圧 したから…
情報が まだ伝わって いないのか!
共に ディールに来ていた 私の元部下の 白騎士団の三人


アカネイア・パレスに戻るよう命令はしたが
私の動きを私の意思を確認するまではあれらは何もしないだろうから
ディールでもあなたに従ってぼくたちと戦おうとはしなかった
すばらしい部下だね
ありがとう私の誇りだ
もしアカネイア・パレスのドルーアの中に彼女たちがいたら助けてはもらえないだろうか
私が解放軍にいたと知ったら仲間になるに違いない
きっと役に立つ
判った
みんなにも伝えておこう
アカネイア・パレス城内の詳しい様子もあなたのおかげで判った
かつての聖都を取り戻すための戦いが有利になる!


くれぐれも先のことで私に気を遣わないでくれマルス
兄上は兄上の誇りを信じてドルーアにいるのだ
戦うことになっても手加減は無用だぞ
ああ――
今なら判る何故あなたが炎の紋章を持っているのか
優しく強い神剣の王子
兄上とミシェイルと戦うのならばあなたはきっと全力で戦ってくれるのだろう
私の望むままに兄上の望むままに
あなたは戦いの女神に戦いの場を与えてくれた
だから私はあなたのための力になろう


私だけでなく
この解放軍の
誰もかもが
きっと
マルスによって
自分の場所を
見つけたのだ
自分を
知りたいのなら
戦え
ただ
待っているだけでは
何も見つからないから
大変だな
神話を継ぐ者
というのも
え？
ええ
マルスさまの
ことね
だから
素敵
なんだわ！
マリアっ


おまえ
みんなの仕事の
邪魔を
しているんじゃ
ないのか？
まあ
姉さまったら
これでも私
お手伝いしてる
のよ！
少しでも
マルスさまの
お役に
立ちたいんだもの
……
本当に
役に立って
いるのか？
シーダ姫
ギモン
えっ
ええ
ケガ人の手当てとか
汚れるからって
言ったんだけど…
私が
ちょーっと
医学の勉強してたの
知ってるでしょ？
シスターの術を
使うまでもない
ケガ人とかも
けっこう多いの
実際シスターとは
まだちゃんと
ごあいさつも
していないくらい
お忙しくて
らっしゃるのよ


そういえば私もそうだ
いずれ機会を見つけてふたりでごあいさつをしよう
はい
？
そんなにレナが忙しいほどケガ人とか出たのかしら
ゆら・
アカネイア・パレス
どうやら支援軍はあらかた到着したようだな


尚も遠方より続々とここアカネイア・パレスに向かっているドルーア軍は多いようだが
戦いの女神はディール城から戻ってこないか？
戦いを楽しんでおられるらしいな
反乱軍を全滅させるとは言っていないのでな
あんな人目のつかない所でやられてしまっては我らがドルーアの力がいかに強大か世間に知らしめられないだろう？
大陸中が注目しているこのアカネイア・パレスで奴らを叩きのめせば
人々は今度こそドルーアに反抗することの愚かさを思い知る
神剣の王子の死体を見て！


うむ！
ミネルバ姫が
ディールで
反乱軍を足止めして
くれたおかげで
予想以上に早く
多くの兵が
集められた
これだけの
数がいれば
まず
大丈夫だろう
寄せ集めの感は
拭えないが…
ミネルバ姫が
戻ってきてくれれば
なおも心強いが
まあ待つとしよう
あとは
ここにいる我々が
密かに連絡を
取り合って
いろいろな作戦を
兵たちへ完璧に
伝達していけば
よいのだ
そうだな
まず城外の…
バタン
ここに
おられたか
各々方！


ボーゼン司祭！
ガーネフさまはもう完全に「お戻り」になられたのか？
おおメディウス閣下ともどももう この城にはおられぬよ
ガーネフさまの一番弟子のこの私でさえあそこまで完璧な・・・こころだけの移動はまだ できぬ
そのガーネフさまの術に負けぬメディウスさまの術もさすがは竜人族の長といったところ
でなんの御用か？ボーゼン司祭
あの お二方が帰られたからには我々が反乱軍との戦いに備えなければならぬので作戦会議を続けたいのだが…
さよう！だから急ぎ駆けつけたのだ
そのような会議は不要!!
なに？
ばっ


ガーネフさまの直筆の書状である
メディウスさまとの連名でこう書かれている
アカネイア・パレスの守りをこの司祭ボーゼンに一任すると！
なっ…
貴公らは国王はじめいずれも治める地と民を持つ身だ今回は重要な会議だったので仕方なく集まってもらったが
長く領地を離れているわけにもいくまい？
そのことを我が師ガーネフさまはたいそう気にしておられたのだ
つまり我々に早く国へ帰れと？


当然と言えば当然であろう？
貴公らの国々あってのドルーア帝国なのだからな
これだけの兵がいるのだから安心されよ！
見ておれ反乱軍めが!!
わはははは…
手柄を独り占めしたいのか
なにが司祭だ俗物めッ
確かに魔道士としての実力はたいしたものだというが
なるほど それでガーネフさまも気に入っておられるわけだ なら反対するわけにもゆかぬ
ミシェイル殿！
どこぞでガーネフさまとメディウスさまが聞いておられるやもしれぬぞ
魔道の力というのは底知れぬからな


おふたりとも どこにおられるかさえ わからぬのに 「こころ」だけで 世界のどこにでも 現われられて 魔道の力も そのまま 使われるという
生き残るために ドルーアにいる ということなど あのお二方には 承知のうえだろうよ
聖アカネイアのように 尊敬と愛で 支配されるより ずっと 私の肌に 合っているのさ
反抗しない その代わり 殺されない すばらしく 判りやすい ではないか！
諸侯も そう思って 聖アカネイアを 裏切って ドルーアに たったのだろう？
ミシェイル殿 ……………ッ
この期に及んで 違うというのは 綺麗ごとだぞ
伝説で 人は 生きてゆけぬ


私の国の民を不幸にするのも幸せにするのもこの私だ
アリティアでも聖アカネイアでもましてや伝説でも神話でもない！
私はマケドニアに帰る
メディウスさまとガーネフさまの命令通りにな
ミシェイル殿の若さにあてられましたか我が王
カ カミュか
陛下とてグルニアのことを一番に考えておいでではないですか
だからこそ私は陛下のお側にいるのです
メディウスさまでなくガーネフさまでもなく
グ・ル・ニ・ア・王・の・あなたのお側に


そういうことだろう「マケドニア王」ミシェイル
自分が護るべきなのはアカネイア・パレスではないと言うのだろう？
我々も国へ戻ろう
自分が護るべきなのは自分の国なのだ
うむ 戦時に国を長く空けるものではないな！
確かに貴公はこの時代に最もふさわしい人物かもしれない
自分の居場所を常に見つめている
本物のアカネイア・パレスが見える


まだまだ遠い
これまでのこと考えりゃあすぐだって！
とにかくこのノルダの町の様子をマルスさまに報告しなきゃ
一番賑やかなとこが見えるぜ
本当にドルーアらしき兵の姿がない！
人は多いが…？
なんかほら！市が立ってんだよ
元気な町！早ぇとこマルスさまに知らせて町に入ろうぜっ
……待て
あの荷物あれが市の商品？
あれは
子供!?



わいわい
わい
客の集まりは上々だ
戦争さまさまだねぇ
どこも人手不足だもんで
ガチャ
子供でも高く売れるぜ！
お家に帰してぇ
わぁぁん
ん？
うるせぇなぁ
わぁぁん


なんか
イキのいいのが
いるじゃねぇか
ああ そいつ
しゃべれないんだ
半額だな
半額
ばっ
ばっ
このガキッ
てめぇなんざ
生きてる方が
不思議なんだぜ
わああん
言いたいことが
あるなら
言ってみろよ
おら!
言ってみろよッ
おまえごときに
くれてやる
言葉など ないと
いうことじゃ
ないのか


ぐぁ
きゃあああッ
わああ
子供の前で！
ナバール！
もう
大丈夫だよ
みんな
奴隷商人は
捕えたから
ぼくたちは
アカネイア
解放軍だ


かいほうぐん
…王子さま
わあぁぁ
マルス王子さまだ——っ
オレルアンの方から連れてこられたのはもう いないかぁ？
馬車が出るぜぇ——っ
わい
わい
ケガしてる子はシスターの所に…
ドルーアがいなくなったのはいいが奴隷市が立つほど町が荒れるとは！
思ったより子供たちが元気なのが救いだな
町が提供してくれる食事は全員に行き渡っているな？
はい 家まで送り返してくれる馬車もまだ貸し出してくれるそうです


護衛まで
つけてくれると
言っています
奴隷市を
見て見ぬふりしていた
埋め合わせの
つもりか？
どんどん
やってもらおうでは
ないか
解放軍だか
なんだか
知りませんがねっ
あんたたちだって
大陸のため
聖アカネイアのためって
人を殺してるじゃ
ないですかッ
おれたちだけ
責められんのは
おかしいんじゃ
ないんですか
マルスさま!!
そうだ
ぼくは
——人殺しだ
マルスさま…
そのことを
忘れたことも
なければ
誰に許された
覚えもない
だけど ぼくは
それを戦争の
せいにはしない
…できない


そのための剣を取ったのは間違いなく ぼくの意思だからだ
いつか責められ追い立てられる日が来るだろう
だからといってお前たちのしたことを黙って見ているわけにはいかないんだ!
がく
びく
あれ 君はどこから連れてこられたんだ?


ぱさ…
あ
…あれ？
そうか
男の子の格好をして
身を守っていたのか
……っ
……っ！
！
しゃべれないのか？
シスター・レナ！
この子を…
うわ!?
きゃっ
！



レナっ!?
だ 大丈夫
今のは…
魔道の力だ
マリク?
彼女は 魔道の力 …呪いで 言葉を 封じられている
呪文を 唱えられない ように
呪文?
それじゃ この子は…
この子には ぼくと同じ 力を感じる
彼女は 魔道士だ!


ばしゃ
ばしゃ
彼女にかけられている呪いはとても強いものです
つまりそれだけ彼女が強力な魔道士だということだね
でなければあれほどまでに厳重に言葉を封じるはずがありません
シスター・レナの癒しの術にも激しく反発してましたし
だとすれば貴重な戦力になる！
なんとか呪いを解く方法を…
…逃がさん
奴の超魔法を受け継ぐ唯一の人間
――！


呪いが解けたら彼女は話せるようになるのか
だとしたらまず 名前を知りたいね
我々の仲間になるかどうかはその後のことだ
なんとか呪いを解く方法を見つけてやらないと


おまえ
逃げないのか
ぎく
そこに
ただいるだけの人間を
解放軍は
必要とはしない
邪魔だ
消えろ
ナバール?
むかっ


またお前はふらふらして!
剣の手入れとかは終わった?
ひょい
!
マルス王子
やあこんばんは
君も夜の散歩?
!!
見つけた——
あの男の娘!


なんだ貴様!?
!? ! ! お前は…
くっくっ あの男の娘の気配を探してここに導かれたのだが!!
あの男?
教えてやろうマルス王子!
我が名はガーネフ 闇の大司祭!!


ドン
なんだっ!?
あの方向にはさっきマルスさまたちが…
あれは魔道の雷だ!!
マルスさまッ
オグマ
アベル!
大丈夫ですかマルスさまっ
そしてその娘は大司祭ミロアの忘れ形見!
あの「最強の魔道士」ミロアの!?



そうよ
誰にも仕えず
魔道の研究に
一生を捧げようと
していた馬鹿者！
その力を惜しんで
ドルーアに誘ってやった
この儂を
諌めようとしおった
いくつかの
超魔法を
身につけて
おったので
宝の持ち腐れに
なる前に
儂のものに
してやろうとしたら
儂に知られる前に
この娘に
魔法を移しおった！
己の命と
引き換えにしてな
だから
言葉を封じて
やったのだ
魔法を使えぬように！
いずれ封印を解き
その魔法を
奪ってやろうと
思っていたら
あさましく
逃げ回りおって
彼女の父上の
命を奪い
言葉を封じた
だけではなく
貴様は…っ
ぱっ
儂の
邪魔を
する者は
殺す!!


突き抜けた？
幻!?
そのことはお前が一番よく知っているはずだぞ
亡国アリティアの王子マルス!!
ぐッ
お
おのれッ
マルスさま いけません…ッ
かなわない
殺されてしまう 死んでしまう
ただここにいるだけなら消えろと言ったはずだぞ



お前の
その眼
あの時も
同じ眼を
していた
流される
ふりをしていても
呪いに負ける
ふりをしていても
その眼がすべて
裏切っている
この魔法を
ガーネフに
渡すわけには
いかない
だから
お前に
私が
持っていて
どうなるというの?
お父さま
どんなに すごい
魔法でも
私の物では
ないのに


お前に盗まれることを思えば声を封じられることぐらいなんでもない！
私の力ではないのに
…くやしい
使えないのなら私の力にならないのならこんな魔法いらない
自分をだまして楽しいか？
戦いたがっているくせに
⁉



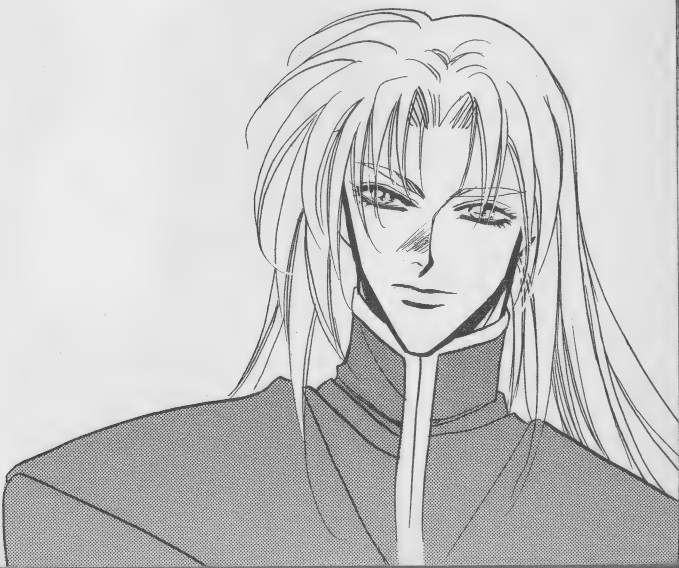
まさか
まさか
儂の呪いが
解けた
——!?
知りたがって
いたから
教えてあげる
ガーネフ
これが
お父さまが
・・・私に託した
魔法!
消え失せろ
幻ッ
聖光


お…の…れ…え
儂は本当に死んだわけではない覚えていろマルス
覚えていろオ——…ッ!!
口を開けばきっと出てくるのはガーネフへの恨みの言葉ばかりだと思っていた
人を傷つけるための言葉
そんな自分の考えが怖くて
ガーネフの呪いのせいにしてその呪いを自分で強くしていたんです
使えない魔法なんかなんの役にも立たないって

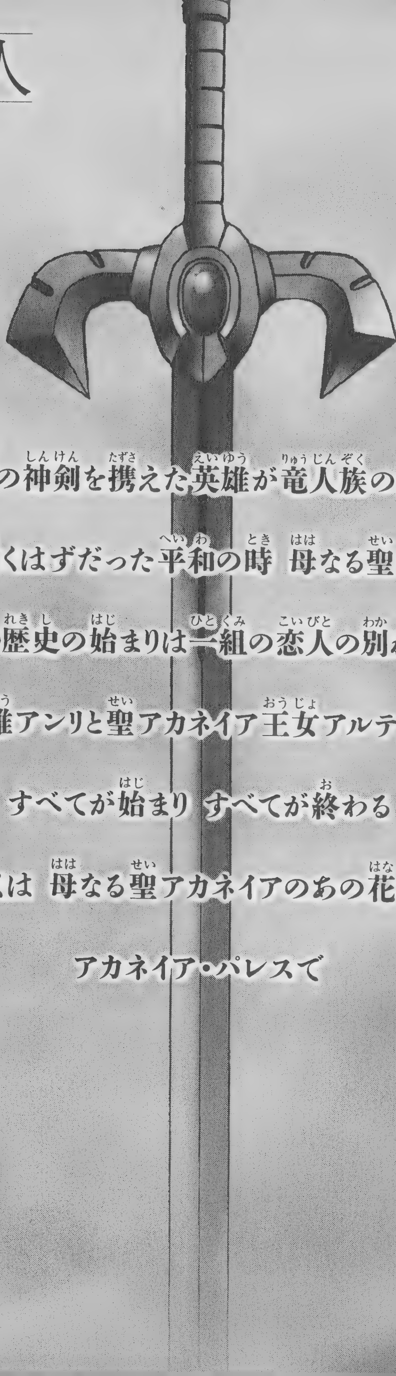

君はその魔法の正しい使い方を知ったんだね？
だから呪いを自分の力で解くことができたんだ
はい
あなたに会って判ったのです
私の力がなんのためにあるのか
私の力のことよりも私の封じられた言葉のことを気にかける人
お父さまが命を懸けて私に移した「聖光」
人をただ傷つけるためではなく
この力マルスさまのために！
我が名はリンダ
たった今より解放軍の魔道士となりました


歓迎するよ
碧い瞳の魔道士
ねぇねぇ
ナバール
しゃべれるようになったら
確かめなきゃって
思ってたんだ
あたしが
戦いたがってるって
判ったのは
―
自分と
同じだった
からでしょ？
…しゃべらない方が
静かでよかったな
なによーっ
もうっ！
もう逃げない
戦場は
いつも
そこに見えている

✡第16話／沈黙✡END



第17話 行人



その昔　伝説の神剣を携えた英雄が竜人族の狂王を封じた

永遠に続くはずだった平和の時　母なる聖アカネイア

しかし　その歴史の始まりは一組の恋人の別れでもあった

――――英雄アンリと聖アカネイア王女アルテミス――――

すべてが始まり　すべてが終わる

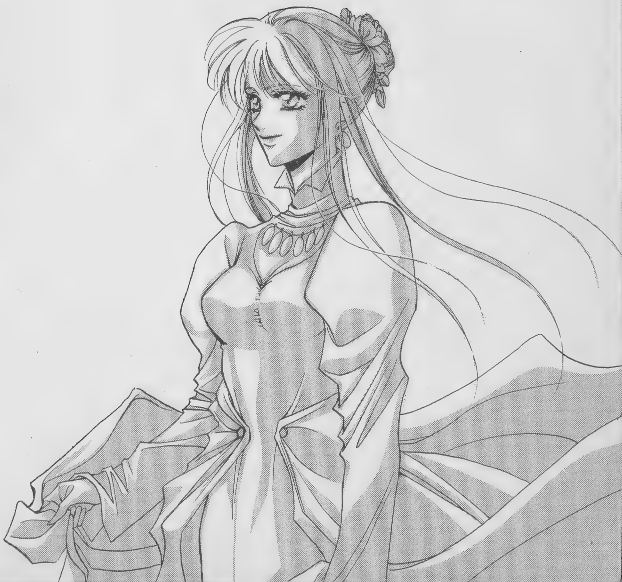
おそらくは　母なる聖アカネイアのあの花の都で

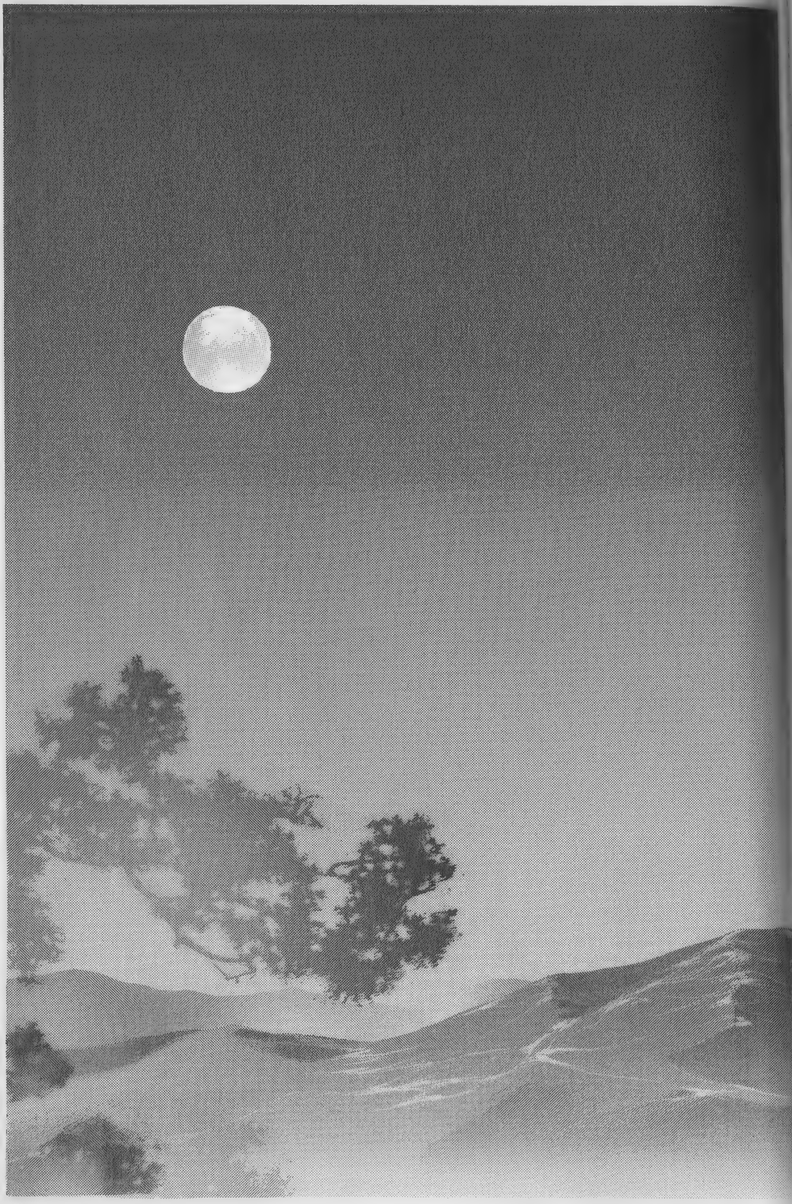
アカネイア・パレスで





ファイアーエムブレム
TM
©1990 Ninten
第17話
行人
こうしん






火を絶やすなよジュリアン
おう任せとけっ
我ら解放軍はここにいるって目印だからな
パチ
パチ
でも まだこのノルダにいるってことはみんな知ってるみたいですねぇ
もう入軍志願者はひきもきらない
いくつかの隊は「現地」に向かっているくらいだからな
あの——アカネイア・パレスへ


花の都
聖なる城
取り戻すべき
我らの
アカネイア・パレス
ほんと
信じらんねぇよなぁ
アカネイア・パレスだぜ？
ここまで
来るとはねぇ
そうだな
ジュリアン
お前とも
長いつきあいに
なる
あぁ 違う違う
そんな年寄りじみたコト
言いたいんじゃ
ねぇんだよ
アベル
おれ
自身のこと！



明日にでも聖アカネイアの城をドルーアから奪い返そうかって勢いの解放軍に
コソ泥風情のこの おれがいるなんて信じられねぇ
・・もとコソ泥だろう?
マルスさまが聞いたら怒られるぞ
ははっ そうか? そうだな
それ以外になれるなんて夢にも思わなかったからつい……な
ガサ
どこへ行くつもりだゴードン
ぎくっ



この期に及んでまだ練習をするつもりか？しかもこんな夜更けに
ジョルジュさん…
気が…高ぶっているので
弓を引いていると落ち着くんです…少し
そうか？おれは弓を引いていると興奮してくるがな
ジョルジュさんがですかぁ？
うっそ〜
次の戦いのためにおれは生き延びたんだからな
血がたぎる もう死んでもかまわん
アカネイアはジョルジュさんの故郷


「母なる聖アカネイア」でなくて
この人の「国」
…死なれちゃ困ります
この次にはおれたちの国アリティアを取り戻すんですから
まだまだ死なないでください!
一人前の口をきくなぁ
見違えるぞ弓手兵
ゴードンですってばもうっ



おや
お仲間だぞ
マリク
リンダ？
どうしたんだい
え？
別に？
ちょっと夜風に
当たろうかなぁ
なーんて
ははぁ
探し人かな
あれは
夜に紛れる
からなぁ
ああ
髪も服も
黒いから
北の生まれ
なのかな
肌は白いん
だけどね
何それ
誰それっ
やめてよっ
あいつが
どうやって
この夜を
やり過ごしているのか
知りたいのか？
…そうね
あいつが一番
冷静そうだから


人が こんなに たくさんいるのに 足もとが ふわついてる感じ
人が たくさん いるからだよ 僕たち魔道士は 特に影響され やすいんだ
ちゃんとした 戦いに参加するのは 初めてなんだな リンダ
ちゃんとした 戦いなんて 変！
たったひとつの 目的の下に みんなここにいる 戦いの結果が どうあれ 自分の意思で 集まり進むんだ
戦え 己の 信じるままに



自分の道に
不安はないわ
ただ
慣れてないだけよ
戦いの前夜に！
この空気
気を抜くと
きつと
押しつぶされる
慣れるもんじゃ
ないさ
そんなもの
くやしい
慣れているように
見えるわ
あなたたちは
だから みんな
どうしているのか
知りたいの
…いいえ
知りたいのは
あそこにいる
たつたひとり


静かにね エルカイト
お前も 緊張してる？
高ぶってる？
ええ 判るわ でも…だから 静かにね
誰も 何も マルスさまの 邪魔をしては いけない
邪魔 できないのよ 誰も
この夜を ひとりで背負う あの王子の心を 知ることなど できない


炎の紋章を掲げ　戦い続ける者
…姉上？
…じゃない
夢か
…眠っていたのか
戦いの前でも
眠れるようになった


あなたは人を殺しに行くの？
夢でも幻でも会いに来てはくれませんかエリス姉さま…もう
後悔はしていません
今度お会いする時は生身のあなたの手を取りくちづけする時です


――アカネイア・パレスへ
オレルアン緑条城
伝令の鷹が参りましたぞ王女ニーナ!!


オレルアン国王陛下
我らが解放軍が遂にアカネイア・パレスに突入すると!
かの戦いの女神マケドニアのミネルバ姫だけではなく
ミロア大司祭の忘れ形見魔道士リンダも軍に加わった
我が弟ハーディンもそしてもちろん神剣の王子マルスも健在!
ドルーアの喉笛に噛みつく日がすぐそこに!!
そう
いよいよ…ですね


ならば私も出発しましょう
私のアカネイア・パレスへ向かって
ニーナ姫!? まだ城は奪還できたとは…
いいえ!
私は帰れます あの城へ 間違いなく!
それは願い


それは望み
それは夢
それは
――
すべて
自分の力に
なるもの
進め
恐れるな
我らと
心を共にする者には
炎の紋章の加護が
あるだろう


母なる聖アカネイアの光が行くべき道を照らしてくれるだろう
アカネイア・パレスを今こそドルーアの手から奪い返すのだ!!


花の都を汚された聖なる城を


今こそ我ら解放軍のものに
アカネイア・パレスを正しき姿に!!
食い止めろ
食い止めるのだっ
ここを奪られたら
私が ガーネフさまの信用を失ってしまう
ドルーアから追放される!!



ボーゼンさまッ
なんだ？
竜騎士が…
紅毛の竜騎士が　マケドニアのミネルバ姫が反乱軍にいるのですッ
なにぃ!?


あの光は…!?
ま…まさか
ボーゼン司祭ッ
はっ
反乱軍に
あの大司祭ミロアが死んで絶えたはずの超魔法「聖光」を使う魔道士が…っ


オーラだと!?
確か反乱軍には禁断の魔法「聖剣裂風」を使う魔道士マリクもいるはず
マケドニアの戦いの女神ミネルバまでもがドルーアを裏切った
東の城門突破されましたっ
なにぃ!?
あそこは魔道士以上の力を持つ司祭が守りを固めていたはずだぞっ
戦上手で知られた草原の狼ハーディンも生きている
反乱軍城内に侵入し始めましたっ


そして
貴公が今のアカネイア・パレスの主だというのか？
恥知らずな——
炎の紋章を持つ神剣の王子マルスが奴らを率いる


ここは母なる聖アカネイアの城
そこに住まうべきは世界に愛されるアカネイア王家の人間だということを知らぬはずはないだろうッ
今世界を統べるのはアカネイアではないわ
滅んだに等しい王家から託された炎の紋章など
なんの役に立つというのだあっ
!!



ドーン!!
しまった マルスさま!?
この城の主は魔道士なのか!?
見たか あの力を ボーゼンさまは司祭だ 甘く見ると痛い目を見るぞ 反乱軍どもっ
わああ
貴様はそのボーゼンとやらの直属の部下というわけか?
なるほど たいした忠義心だが
その他の兵がどう見ても寄せ集めにしか思えんのはどういうわけだ?
軍として統一性に欠けているぞ 情けない!



確かに貴公の味方には優れた魔道士も知られた騎士も多くいるようだが
マルス王子そのものはただの人間!!
ガーネフさまに認められたこの私の力思い知れ
ガラガラ…
これがドルーアの力よ!!
ザァ…


!!
ご無事ですか王子？
お怪我は…っ
なっ……
――そんなものがドルーアの力か
ならば見るがいい


これが
ぼくの力
解放軍の
力だ
ドルーア
ごときに
負けるものかッ


ガキンッ
マルスさまご無事ですかッ!?


ああ
シーダ
もちろんだよ


さあ
旗を掲げよう
アカネイア・パレスが還ってきたことを世界に知らせるために！
アカネイア・パレスが解放されて およそ五日後 いまや ただ ひとりの アカネイア王族 ニーナ王女が 到着
王城解放に 沸き返っていた 人々の熱気は 最高潮に 達した


町の方もすごい騒ぎだぞ
解放軍の兵だと知られたらもう祝いの酒攻めだ
壊されたり焼かれたりしているところも多いんだがな
ならば建て直せばよいのだ
過去は忘れてはならぬがいつまでも引きずっていては前に光は見えぬぞ


…思い出すよな
ああ
タリス城を
そして
オレルアン緑条城を取り返した時もこんなだった
次は
おれたちの城だ
あの
アリティアの城を
いつも
そう思ってた
それは願い
それは望み
それは
だけどもう
思うだけじゃ
すませない


今度はおれたちの番だ 間違いなく！
おれたちのマルスさまと共に
ここまで来たんだから ——絶対だ！
パオラもカチュアもいなかったわね ミネルバ姉さま…
——無事を信じているよ
たびたび「反乱軍」つまり王女ニーナに逆らったこと 王女は許してくださった
世界のどこかでそのことを知ればパオラたちもすぐにでも来てくれる
ニーナさまは我々の兄のことも気遣ってくれた マケドニア王族としての誇りを忘れぬことがそのお心に応えることになる よいな マリア
はい …あっ


マルスさま！
こらマリア お話し中では ないか…
あっ…
レナ!?
やあ ミネルバ マリア…
知り合いかい？ こちらは 解放軍に ずっと同行して くれている シスター・レナだよ
マケドニアの 姫さまたちと 知り合い!?
…私たちの兄 ミシェイルが 無茶な求婚を したばかりに
マケドニアでも 有数の名家だった 家を捨て 国を捨てることに なってしまった女だ…！
お久しゅう ございます ミネルバさま マリアさま きっと お優しい あなた方が 気に病まれて いると思って どう お会いして いいものか 悩んでおりました


シスターとしての「力」があることは知っていたのにどうすればよいのか判らなくて
ミシェイルさまから逃げるふりをしてシスターの道に入ったのです
何が できるのか どこへ行けば よいのか
もう あなたは逃げてなどいないよ レナ
みんな それを 捜している
ミシェイルっつったら今や マケドニアの王様じゃねぇか
やっぱ あんたは お姫さま だったんだなぁ…
ジュリアン 私…
…ってな風に昔のおれなら落ちこんでたんだが
今のおれには関係ねぇ
おれはおれで レナはレナ だもんな


そうだよ ジュリアン 自分は自分以上にはなれないんだから
自分で ―― 変えていくんだ
望みに 願いに そして力に ふさわしい自分でありたい
前に進むために
本当のことを言ってやろうか ナバール
国をあげて浮かれている最中に お前がマルス王子を殺すんじゃないかと思っていたよ


疑い深いな
オグマ
さすがだが
それぐらい
あの王子に
惚れこんでるって
ことだ
おれも
お前もな
ザザザザ
先を
越されたな
じゃあ
向こうの木陰で
死んでるのは
誰がやった
ドルーアも
さすがに しつこい
残党が
まだ紛れこんでる
だが
おれたちも
相当しつこい
性格だぞ
災難かも
しれんな
マルス王子さまも
それぐらいの
覚悟は
してもらわなくては


同感だ
くす
ガサ.
ここの庭は覚えてる
小さい頃
まだ大陸が平和だつた頃
祝事とかでこの城に来るたびみんなでここで遊んだ
無事に残ってたんだ…


忙しさにかまけて
アカネイア・パレスの
損害状況
ちゃんと
調べていないなぁ
思っていたより
綺麗で
よかったけど
ニーナさまも
喜ばれていたな
ふう



姉さま
じゃない?
あれは
あぁ そうか
ここは
あなたたちが
さよならをした
ところなんだ
英雄アンリと
王女アルテミス


ザアッ


マルスさま！
こんなところでうたた寝してたら風邪をひきますよ！
夢？幻？
でもお疲れよね
アカネイア・パレスが解放されてからいろんな方にたくさん会われて大変だもの
…なにか私の顔についてます？


いいや
シーダは
シーダだよ
いつも
君がいた
？
はい
終わりと始まりの場所に


疲れてなんか いられないね
まだまだ やらなきゃ いけないことがある
お手伝い します！
みんな みんな そうします 絶対！
知ってるよ
だから ここまで 来られたんだ
行こうか シーダ みんなの ところに
はい


マルスさま？
いや
なんでもないよ
昔ここで
何があったか
知らなくてもいい
今ここから
始まることを
知っているから


もうすぐ
還る
そのために
侵略の大地を
踏みしめて
戦いの血路を往く
還ってみせる
――
碧い風の
アリティアへ
終わりと
始まりの場所


現実が伝説に変わり始める時
☆第17話／行人☆END

初出

ファイアーエムブレム 第14話／紅雨Ⅰ 1997年「ファンタジーDX」4月号掲載
ファイアーエムブレム 第15話／紅雨Ⅱ 1997年「ファンタジーDX」5月号掲載
ファイアーエムブレム 第16話／沈黙 1997年「ファンタジーDX」6月号掲載
ファイアーエムブレム 第17話／行人 1997年「ファンタジーDX」7月号掲載

ファイアーエムブレム 5

あすかコミックスDX

著者――佐野真砂輝 & わたなべ京

発行者――角川歴彦

発行所――株式会社角川書店
〒102 東京都千代田区富士見2-13-3
振替／00130-9-195208 電話／編集部03-5229-3613 営業部03-3238-8530

装丁――末沢瑛一

印刷――廣済堂印刷株式会社

製本――廣済堂印刷株式会社

初版発行――1997年10月1日

この物語はフィクションであり、実在の人物、団体名とは関係がございません。
落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

〒354 埼玉県入間郡三芳町藤久保557-2 角川ブック・サービス
ISBN4-04-852357-0 C0979
Printed in Japan

ASUKA COMICS

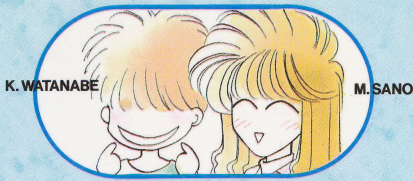
佐野真砂輝&わたなべ京
トーキョー・ガーディアン
①〜⑦



魔物・能力者（サイキック）退治専門の警視庁第11課。ここの強力コンビは、寒河江（さがえ）紫（ゆかり）と嘉数（かかず）建城（たてき）。そこへ男嫌いの新米（しんまい）刑事・折原（おりはら）伊吹（いぶき）が加入して、最強トリオの誕生となるか!?

新書判／角川書店

PROFILE



佐野真砂輝

☆さのまさき
12月19日生まれのB型
東京都出身

わたなべ京

☆わたなべきょう
8月16日生まれのO型
大阪府出身

デビュー作は「スプラッシャー」。

佐野真砂輝&わたなべ京の本

あすかコミックス

トーキョー・ガーディアン 1～7

あすかコミックスDX

ファイアーエムブレム 1～5

ファイアーエムブレム外伝



9784048523578
1920979005204
ISBN4-04-852357-0
C0979 ¥520E
角川書店　定価：本体520円（税別）



英雄アンリの伝説を背負い、戦い続けるマルス王子。
そしてついに解放軍は、ニーナ王女の祖国・聖アカネイアの目前に
迫ったのだが――!?　緊迫の聖都決戦!!